



主役は市民！ みんなの力で社会を変えよう

—— 2018年 私たちの決意



多摩市議会議員(社民党)
伊地智 恭子

日々の生活は一目ずつ毛糸を編んでいくようなものですが、過ぎてしまうとあっという間だったような気がします。皆さんにとって2017年とは一体どのような年だったのでしょうか。

◆ 都議選にみる自民党の“弱さ”

昨年の政治トピックで私にとって一番大きかったのは、やはり秋の衆議院選挙です。しかしあの自民圧勝の結果を分析する前段階として、非常に興味深く思うのは7月の都議選でした。あのときは小池都知事の人气がいわば絶頂期で(細かく見れば微減傾向もありましたが)、都議会の自民党はかつてない歴史的な大惨敗を喫しました。

実は、都知事選から続く“小池フィーバー”は実体のない雰囲気的なもので、それゆえに識者からは再三「小泉流の劇場型政治」と批判されていました。私も、小池氏の本質は対話重視やリベラリズムとはほど遠いと考えていますが、今言いたいのはそのことではありません。ああいう雰囲気的な“スター”の出現でたちまちチェス盤がひっくり返るのはなぜか。つまり、自民党と安倍政権は決して国民の多大なる支持を勝ち得ているわけではない、ということです(この事実を正確に把握している自民党議員もいます)。

◆ ではなぜ「自民圧勝」なのか

事実、今回の衆院選は戦後2番目に低い投票率と小池人気の急激な失速、それらのベースにある国民の政治不信、特に

野党勢力への信頼感のなさが自民党を勝利させたと言えるでしょう。この点、社民党の一員として、私も真剣に打開策を求め行動していかなければなりません。

ですが、私は何度でも言いたい。「選挙に行ったって何も変わらない」は、嘘です。「市民には何の力もない」は、嘘です。

私たちが動けば、社会を変えられます。現に今、都議会の自民党は野党第一党ですらありません。

小池流の政治手法を私は断じて支持しませんが、私たち一人ひとりに社会を変える力があるのだと証明してくれた、その意義は絶対に見失ってはいけないと思うのです。

◆ 主権者の力を信じよう

そしてそれは、今の安倍政権を消極的な形であれ支えているのが私たちだ、という厳しい現実と向き合わせるものでもあります。

アベノミクスの恩恵など庶民には一滴も回って来ず、森友・加計問題の件は国民の8割が「納得できない」と感じているのに、どうして数々の社会保障削減や増税案を止められないのか。戦争になれば犠牲になるのは私たち市民なのに、どうして火種を煽る日米首脳の言動に乗せられてしまうのか。

私たち市民が目を開き、自分の頭で考えれば、必ず社会はよいほうに変わる。私は、そう信じています。